

ぐんま昆虫の森～自然や生き物とふれあう

昆虫の森建設室 小山千明

1 はじめに

かつては、どこにでもあった「里山の風景＝日本のふるさと」というべき原風景とそこでの暮らしの中で、子ども達は、虫やカエルを追い、魚など生きものと遊ぶことで、自然に接し、その遊びの中で自然の生物たちから多くのことを学びました。ぐんま昆虫の森では、群馬県勢多郡新里村の荒れていた里山を整備して、いきいきとした50年前の農村環境を復元し、身近に昆虫や小動物を呼び戻し、現在の社会において忘れ去られた「里山＝豊かな自然」の中で、今の子ども達にも生きものを見つけ、その体験を通して生命の大切さに気づき、豊かな感性を育む新しいタイプの施設の建設を目指して平成17年の夏に全面オープンを予定しています。現在は、フィールドの一部を利用して体験プログラムやイベントを行っています。

2 施設の概要

ぐんま昆虫の森では、事業地域(48ha)を(1)富士山沼ゾーン、(2)雑木林ゾーン、(3)桑畑ゾーン、(4)水田ゾーンの4つに分けて、それぞれのフィールドで人や生き物の里山での営みが再現されています。



(建設が進められている昆虫観察館)

(1)富士山沼ゾーン:凝縮された里山環境

里山を構成する雑木林、草原、小川、池といった昆虫が息する環境をコンパクトに集めたエリアです。ピオトープや昆虫観察館、生態温室などの整備を進めており、平成17年の夏に公開予定となっています。昆虫観察館では、里山や昆虫について学習

する展示があり、生態温室では、温暖な亜熱帯の西表島の環境を再現し、一年中チョウが舞う姿を観察できます。

(2)雑木林ゾーン:クヌギ・コナラ等を主体とした森林環境

クヌギ、コナラを主体とした雑木林が広がるエリアです。下刈り作業や更新伐採などを行いながら、良好な雑木林を維持管理しています。林床が、人の手により、管理されているので、林内性昆虫の生育環境として機能しており、カブトムシやオオムラサキなど、里山を代表する昆虫の一年の様子や、様々な四季の動植物を観察できます。冬には、落ち葉掻きや炭焼き体験など里山の作業体験を行っています。



(雑木林ゾーン)

(3)桑畑ゾーン:草原と農作物の生産環境

50年前の里山文化の復元をテーマに明治7年に建てられ、移築した赤城型民家(養蚕農家)を中心に、かつての農村を再現したエリアです。民家の中では、昔ながらの方法での蚕を飼育する体験や木・どんぐりのクラフト細工、繭クラフトが楽しめる体験工房としても活用しています。桑園の他、畑では、季節にあわせてそばや芋、野菜を栽培し、それに集まった様々な昆虫の観察ポイントとして利用しています。特に、アブラナ科野菜は、年間を通して栽培し、モンシロチョウの一生を観察するには、絶好のエリアです。草地には、バッタなど草原性の昆虫がみられます。



(桑畑と赤城型民家)

(4)水田ゾーン:棚田の残る谷戸環境

古くからある棚田を保全し、トンボやホタルなど水生生物が観察できるエリアです。水田では稲作体験ができます。狭い谷戸の棚田を取り囲むように、雑木林の木々が迫り、水田との境に小川が流れているので大型の甲虫や水生昆虫が多く、昆虫相が非常に豊かな環境になっています。



(水田ゾーンの棚田)

3 体験プログラム

現在、子ども達の体験活動の不足が問題視され、生きる力の育成が叫ばれています。このような状況を踏まえて、ぐんま昆虫の森では、昆虫観察、雑木林の維持管理、田畑での農作業等の体験を通して、学校や社会団体の要請に応えられる体験プログラムを行っています。

4 フィールドでの各種イベント

(1)一般公開

今年の4月から月1回の一般公開を行っています。昆虫観察会の他、子ども昆虫教室、蚕の飼育体験、サツマイモの栽培体験、クラフト教室、落ち葉掻きなど季節にあわせたイベントを行っています。

(2)自然観察会

県内の山野で観察会を、年に数回行っていきます。昆虫の森では、みることのできない昆虫や夜の昆虫の観察を中心とした生きものの観察会です。

(3)昆虫調査隊による調査活動

登録者を対象とした調査活動です。セミのぬけがら調査やアキアカネのマーキング、オオムラサキの幼虫調査などを行っています。

(4)炭焼き体験

一般の参加者を募集して、伏せ焼きと本窯での炭出しを行って里山のくらしを体験してもらっています。

(5)里山文化塾

ぐんま昆虫の森のフィールド維持・整備の支援として、塾生を募集しています。里山の作業や農作業体験を通して、かつて人と自然が共生していた農村の生活や文化を学ぶために、雑木林の落ち葉掻きや植樹、稲作作業などを行っています。

5 おわりに

ぐんま昆虫の森では、昆虫がテーマですが、昆虫はあくまでも手段であって、昆虫を通じて自然を理解することが目的です。昆虫は動物種の7割を占めるといわれ、人間にとって最も身近な存在であり、しかも、さまざまな環境に適応することから、生き物の進化や行動をみる上で非常に良い素材であり、自然を理解するには、最適な題材です。昆虫という小さく、一生のサイクルが短く、扱いやすい生きものは実験材料としても有望であり、カイコやショウジョウバエは、かなり研究されています。さらに近年、博物館の裏側や管理の内側を体験できるような参加型のワークショップがありますが、ぐんま昆虫の森においても、教材としての昆虫の提供や生態温室に放つ昆虫の飼育、食草の栽培への参加体験、実験材料としての昆虫の扱い方のワークショップなど、高校の理科学習に利用できる場を考えています。小学生の頃、遊びながら学んだ昆虫を題材に引き続き、中高生にも自然の生きものに触れる機会を与えて頂きたいと思います。

ぐんま昆虫の森(連絡先)

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

電話 027-226-4723 Fax 027-243-7837

URL

<http://www.pref.gunma.jp/kyoi/konntyuu/page/index.htm>